

## 令和5年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

建築学科 教授 竹下純治

竹下純治教授は、平成8年4月に着任して以来、学校運営、学生指導の各面において次のような業績を残している。

学校運営に関しては、教務主事補等主要3主事補を担当しており、教務主事補は平成19年～平成22年と令和3年～現在までの計7年間担当している。特に広報関係を担当し、現在も使用されているリーフレットやパンフレットのデザインの原形を作成した。

学生主事補担当時には、独立行政法人化に伴う変形労働制に対応するため、全教員による部活動の巡回システム（課外活動支援教員制度）の構築に、学生主事グループのメンバーとともに主体的に関与した。この巡回システムに関する論文を教育教員研究集会や高専教育に投稿・発表（2008年）した。この発表は学生指導分野において高く評価され、文部科学大臣賞を受賞した。また、この巡回システムを参考にしたいとの求めを受け、徳山高専から講演会の講師として招請された。40周年史の作成・発行の際にはデザイン協力を求められ、表紙及び全体のデザインや色彩を担当した。

令和2年度に担当した本校のマスタープランの作成（キャンパスマスタープラン2019）では、キャンパスマスタープラン専門委員会委員長として、立案と取りまとめを行った。全教職員から施設整備に対する要望の抽出を行うとともに、その要望を反映した中・長期計画の建替え計画案を自ら作成し、ゼミ生の協力を得て3D-CADによる新校舎のパースペクティブ作成も行った。本校キャンパスの将来の姿を早い段階から提示することにより、建替え準備の推進状況をアピールしている。その成果として、現在も進行中である学寮の改築や新講義棟及び情報工学科棟の改修は、マスタープランに基づいて計画が実施されている。令和4年度からは施設環境整備委員会の委員長として、本校施設の維持管理や校舎の改築や改修工事において、尽力している。

学生指導に関しては、卒業研究や特別研究において、学生に安易に研究テーマを与えるのではなく、学生自らがテーマを考えて取り組むように指導している。確実に良好な研究成果だけを追い求めるのではなく、研究のプロセスを重要視し、学生の探求心や研究力、問題解決能力をじっくりと育み、技術者としての総合力を身に着けさせることが狙いである。近年、建設工学専攻の指導学生2名が、日本建築学会東海支部研究集会で優秀学術講演賞（2016年、2020年）を受賞しているが、研究テーマ決め段階から悪戦苦闘し、調査・分析・考察の過程において、学生自身が苦労してまとめ上げた結果、成し得ることが出来た成果であると評価している。

授業に関しては、自身が芸術大学出身である利点を生かし、積極的に低学年での造形教育（デザイン系科目）の整備・充実を図った。この成果としてデザコンの本選出場者や最優秀賞受賞者を多数輩出している。また、実務経験に基づく建築設計力を生かした指導により、建築設計コンペティションにも多くの入賞者を輩出しており、日本建築家協会東海支部主催の東海学生卒業設計コンクールの入賞者を計6名輩出している。そのうち金賞と銅賞を各1名（2012年、2009年）、計2名が受賞している。また指導する学生が、2012年の日本建築学会設計競技において入選し、タジマ奨励賞を受賞した。こうした学生の受賞結果により、高専の建築設計教育が大学と同等以上であることを証明した指導実績は、評価に値すると言える。

以上のとおり、竹下純治教授は、学校運営及び学生指導の各方面での活動に顕著な功績があったため顕彰する。

## 令和5年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 准教授 江口啓子

江口啓子准教授は、平成30年4月に着任して以来、教育、学校運営および研究の各方面において次のような業績を残している。

教育においては、令和元年度より指導教員を4回務めた。一般学科の教員として低学年のクラスを担当し、高等学校での勤務経験を活かして高等教育機関にまだ不慣れた学生たちのサポートを心掛けつつ、学生の自主性をはぐくむクラス運営を行った。令和2年度の前期は新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔によるクラス運営を余儀なくされた。Office365の機能を最大限活用できるように勉強し、TeamsとFormsを用いてオンラインでのクラス経営に取り組んだ。

学校運営においては、令和2年度より国際交流センター室員を務め、主に留学支援や国際交流イベントの開催に貢献している。留学支援では留学を希望する学生向けの説明会を開催するほか、応募や試験にむけてのアドバイスも個別に行っている。また、日タイ高校生サイエンスフェア(TJ-SSF)、日タイ高校生ICTフェア(TJ-SIF)に参加する学生指導および引率を令和元年度より担当している。1～3年生を対象としたこれらのイベントでは英語によるオーラルプレゼンテーションやポスター発表の指導のほか、海外渡航が初めての学生も多いため、海外渡航のための安全教育も行っている。さらに、留学に行かない学生たちのために校内における国際交流イベントの企画、開催にも尽力してきた。令和2年度から毎年開催しているTEDxToyotaKOSENはその立ち上げから関わり、メインスタッフの学生らと共に試行錯誤しながら一からイベントを作り上げてきた。本イベントはその準備過程も通じて学生たちの視野を国際的に広げる契機となっている。

令和5年度からは寮務主事補を務め、主に低学年寮生や女子寮生の指導にあたっている。令和5年の5月から新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、寮の運営もコロナ禍前の状態に少しずつ戻していく必要がある。寮の運営を中心に担う指導寮生たちと協議しながら寮内ルールの変更に取り組んでいる。

研究においては、お伽草子と呼ばれる、中世に多く作られた絵入りの短編物語を研究対象としており、令和元年度からは科研の若手研究の助成をうけて中世の物語文化を支えた女性たちの文芸活動の研究を行っている。その研究成果は学術論文だけでなく一般書を通じても発信し、社会に広く還元している。

以上のとおり、江口啓子准教授は、教育・学生指導、学校運営、研究活動などに貢献があったため顕彰する。

## 令和5年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

一般学科 講師 遠藤颯馬

遠藤颯馬講師は、令和2年4月に着任して以来、教育、研究および学校運営の各方面において次のような業績を残している。

学校運営においては、着任から現在に至るまで、寮務主事補および寮監を務め、教職員や学生と協同し、寮の円滑な運営に貢献している。特に低学年の学寮教育に力を注ぎ、学生に親身に寄り添いながら、学寮での諸問題を解決し、学生の学校生活の充実に寄与した。また、合理的な配慮が必要な学生の対応においても、教職員や保護者と連携し、適切な指導を行った。着任とともに、寮運営においても、新型コロナウイルス感染症対策が必要となったが、学生の安全性の確保や学校生活の充実を考慮したうえで、学寮でのルールの立案および運営に尽力した。コロナ禍においても、寮生活を楽しんでもらうために、感染状況に配慮しつつも、寮祭を始めとしたイベントの充実にも実行委員の学生と精力的に取り組んだ。

教育活動においては、本校の学生の英語力向上を目指し、授業に取り組んでいることがあげられる。なかでも、卒業後も技術者として活躍する際にも通用する確かな英語力習得を目指し、本校の英語教育の強みであった多読に加えて、英文法の理解に基づいた精読教育を行っている。将来学生たちが必要となるであろう、難解な英文を読みこなす読解力や論理的に正しい英語を発信する態度を身に着けさせるためである。その結果、授業改善のためのアンケートを通じた、学生からの評価も良好であった。また、本校では、必ずしも英語圏に限らない留学希望者が多数いるが、彼らを対象とした外国語学習相談を行っている。令和2年度から4年度においては、希望者を対象に放課後ドイツ語勉強会を開催した。参加者からは、勉強会によって、「ドイツ留学の事前準備をすることができた」「ドイツ語への関心を持つ仲間と親しくなることができた」「ドイツ語技能検定試験を取得することができた」といった好意的な声が寄せられた。

課外活動としては、ハンドボール部の顧問教員として、学生の部活動をサポートした。その結果、本校ハンドボール部は、全国高専大会で優勝1回、準優勝2回という好成績を収めている。令和4年度の東海地区大会では、本校は主幹校となったが、競技指導のみならず、運営面でも尽力した。

研究活動においては、西洋古代史を専門とし、特に古代エジプト史に関心を持ち、研究を行ってきた。その成果は、所属する関連学会（日本オリエント学会など）で報告されている。また、古代エジプト史の普及活動にも努力しており、一般書であるザビ・ハワス著『ツタンカーメン 黄金の秘宝』（河出書房新社）の翻訳を行った。

以上のとおり、遠藤颯馬講師は、学校運営・課外活動・教育研究活動の各方面での顕著な功績があったため顕彰する。